



モユク・カムイ 123

NO.

●モユク・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。 January 2025

ASAHIYAMA ZONE NEWS

あさひやまどうぶつえんニュース



エゾモモンガ

Pteromys volans orii

もくじ

ぼくは動物大使 その84 空飛ぶハンカチ エゾモモンガ	1.2
特集 旭山動物園から移動した動物のその後 ～移動先の動物園での様子を聞いてみた～	3.4
飼育研究レポート	5
エゾシカを学ぶ・楽しむ～「エゾシカまるごとシリーズ」を開催しました～	
動物資料展示館をリニューアル!	6
主なできごと・編集後記・飼育動物数	7

エゾモモンガ

学名 *Pteromys volans orii*

分類 げつ歯目
リス科

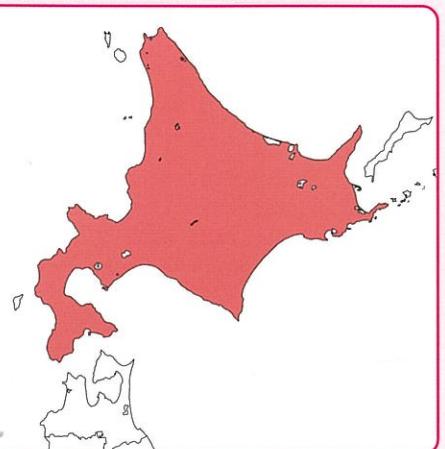
エゾモモンガは北海道全域(島嶼部と千島列島を除く)の平野部から亜高山帯の森林に生息する。ユーラシア北部に広く分布するタイリクモモンガの1亜種であり、本州、四国、九州に生息するニホンモモンガとは別種。

両種を外見で見分けることは困難だが、乳頭数はエゾモモンガが4対、ニホンモモンガが5対である。

住処や食料、移動手段を樹木に依存するため、巣穴に適した樹洞がある樹木を含む森林に生息する。防風林や住宅地近くの雑木林などの環境にも生息していることがある。

本種は夜行性であり警戒心も強く、また一生のほとんどを樹上で過ごすため、日常で観察される機会は少ない。

エゾモモンガの分布



北海道に分布

ぼくは動物大使 その84 空飛ぶハンカチ

エゾモモンガ

大きさ

頭胴長 15~16cm
尾 長 10~12cm
体 重 100~120g

活動時間帯

完全な夜行性であるが、厳冬期には採餌するために日中に活動することもある。

大きな目

暗闇でもよく見えるように、顔の大きさに対して目が大きい。

毛の色

夏毛は淡い茶褐色、冬毛は灰褐色である。

繁殖

1年に2回繁殖できる。最初の交尾は2月下旬~3月下旬。交尾後はメス単独で営巣し、出産は4月中旬~5月上旬頃。仔の数は2~6頭。2回目の繁殖をする場合は仔が独立する6月中旬~7月上旬が交尾期になり、出産は7月下旬~8月中旬になる。



飛膜

前肢と後肢の間、後肢と尾の付け根にかけて飛膜がある。また、前肢の手首のあたりに細長い軟骨(下の写真の赤く囲んだところ)が伸びており、これを外側に張り出させることでさらに大きく飛膜を広げることができる。飛膜を広げ、風の力を受けながら飛んで樹と樹の間を移動する。この飛び方を滑空という。時には50m以上滑空することができる。



尾

薄く平たい形をしている。尾を使ってバランスを取ったり、滑空中は舵取りに使って旋回することができる。

巣を共有

基本的に単独生活者ではあるが、冬が近くなると複数のオスやメスが一緒に巣穴に入り、体を寄せ合い冬を乗り越えることが多い。ちなみに、エゾモモンガ舎で飼育している個体は冬だけでなく、年中複数個体で同居している。

北海道のリス科の動物たち

北海道のリス科の動物にはエゾリス、エゾシマリス、エゾモモンガの3種がいます。同じリス科の動物のため似ている点が多いですが、生息環境や活動時間帯、巣をつくる場所などが少しずつずれているため、同じ北海道の中でも競合することなく生息しています。

	エゾリス	エゾシマリス	エゾモモンガ
活動時間	昼行性	昼行性	夜行性
巣の場所	樹 上	地 下	樹 上
冬 眠	しない	する	しない

19年ぶりに エゾモモンガが繁殖!

令和3年にオープンしたエゾモモンガ舎内で、エゾモモンガが繁殖しました。

旭山動物園では久しぶりの繁殖です。

今回出産したメスの「べに」が7月末から巣箱にこもるようになり、8月1日に中を確認したところ3頭の出産を確認しました。

仔の性別はすべてオスで、名前は「みずき」「はるき」「やなぎ」と名付けました。

生まれた仔は最初目も耳も開いておらず、毛も生えていませんでしたが、皮膚から透けて見える眼球の大きさが特徴的でした。

生後約20日で耳が、約35日で目が開き、生後約40日で巣から出て固形物を食べ始めました。

現在は母親から独立し、それぞれ好きな巣箱で寝ています。

「べに」が出産した巣箱には、もとから同居していた別のメス個体がいましたが、出産を迎えてなお同居関係は継続され、仔たちもその巣箱のなかで成長していくという、エゾモモンガの寛容さを目の当たりにしました。



生まれたてのエゾモモンガの仔

特集 旭山動物園から 移動した動物のその後 ～移動先の動物園での様子を聞いてみた～

昨年も多くの動物が旭山動物園に新たに加わる一方で、旅立つ動物もいました。動物園ファンのみなさんは旭山で生まれ育った動物が旅立つことは少し寂しいことかもしれません。そこで今回の特集では移動先の動物園にアンケートを行ったので、最近の様子を紹介したいと思います。

ホッキョクグマ・ゆめ

2021年12月10日 旭山動物園生まれ 性別メス
2023年12月 1日 神戸市王子動物園へ移動

移動後のゆめは「当初は環境に慣れることに専念している様子でしたが、食欲は旺盛で、1週間もしないうちに吠えてご飯を催促するようになりました。」とのことでした。王子動物園にみゆきという国内最高齢のホッキョクグマがいましたが、2024年1月に亡くなっています、そのため来園者の方からは「こんなに動いてるホッキョクグマ初めて見た」、「見ていて飽きない」、「ホッキョクグマ舍から離れられない」などの声をよく耳にするそうです。



担当者の前野美紅さんとの関係も、「来園当初は吠えたり、柵越しに飛び掛かられることが多かったのですが、最近では吠えずにトングからご飯を受け取ってくれるようになりました。また、雪山を掘る行動が多く、トンネル状になった雪山から顔を出すこともあります。」とのコメントをいただき、王子動物園の環境を満喫している様子がわかります。

ユキヒョウ・ジーマ

2012年3月25日 ライプツィヒ動物園より来園 性別メス
2022年1月17日 石川県いしかわ動物園へ移動

移動後のジーマは「すぐに新しい環境になじんで、食欲も良好、放飼、収容もスムーズで手を焼く事はまったくなかった」とのことでした。その後、オスのスカイとのペアリングが行わましたが、「最初は若干びびりぎみだったスカイを上手にリードし、小競り合いもなくペアリングも成功し、2023年3月31日の出産時はジーマ特有のグルグルポーンと見事な出産。そして、さすがベテラン母さん、まったく心配することのないすばらしい子育てを見せてくれています」とのことです。

現在はジーマと変わらないくらい大きく育ったヒメル(娘)のじゃれつきにかなり苦労しているようですが、上手にあしらう事が今のジーマの日課だそうです。担当の坂牧朝仁さんからは「当園では初めてのユキヒョウの繁殖でしたが、ジーマのおかげで貴重な経験をさせてもらいました」との言葉をいただきました。



いしかわ動物園ホームページより引用

レッサーパンダ・梨梨

2018年7月11日 旭山動物園生まれ 性別メス
2022年2月 3日 羽村市動物公園へ移動



移動後の梨梨は「1年前後は新しい生活に馴染めず、落ち着かない様子でした。そんな中でもトレーニングなどを通して飼育員とのコミュニケーションが少しずつ上手になりました」とのことでした。繁殖の様子は、「ちょっと臆病な性格であったため、オスのアルが接近すると逃げ回ってしまう状態でしたが、時間かけて仲を深めました。

梨梨は出産前日まで外で目いっぱい遊んでいたので、まさかその翌日(2024年6月22日)に出産に至るとは我々も思っていませんでした」とのことです。屋外で出産してしまった母親の渝渝に似たところもあるようです。現在は子の「たけのこ」の育児に奮闘中の様子で担当の田中勇祐さんからは「子と一緒に遊ぶ姿を見ていると自然とこちらも笑顔になるほど、いつも楽しそうに過ごしています」との言葉をいただきました。

シム・アムールトラ・新

2020年2月 1日 旭山動物園生まれ 性別オス
2022年3月31日 長野市茶臼山動物園へ移動
2024年5月29日 日立市かみね動物園へ移動



移動後の新は「来園して2~3日はエサも食べなかつたが、それ以降の食欲は良好で環境にも比較的早く適応したように感じました。茶臼山動物園の担当者からも慎重な性格だと伺っていたため、展示場に出られるようになるのに時間がかかると思われたが、当園ではすんなり展示場に出てくれて安心しました」とのことでした。ペアリングについてはこれから、「茶臼山動物園から一緒に来た、メスの和とは良好な関係で、隣同士の寝室でもあることから、柵越しに挨拶をする様子なども見られます」とのことです。担当の山下裕也さんからは「当園にいる先住のベンガル系のトラと比べて体が大きく迫力あるため、『大きい』『かっこいい』などの声が多く聞かれます」との言葉をいただきました。

シシリンオオカミ・ノンノ

2012年 4月24日 旭山動物園生まれ 性別メス
2018年11月14日 富山市ファミリーパークへ移動



移動後のノンノは「当日は餌を食べなかつたが、翌日から少しずつ食べるようになりました、時間をかけて少しずつ富山での生活に慣れていきました」とのことでした。昨年4月に、同居していたオスのシートンが亡くなってしまい「少し元気がなく食欲も落ち、心配していました。その後鹿児島から甥っ子にあたるゼンがやってきてからは、お互いのことを気にして臭いを嗅ぎに行くなど動きが増えました。2024年4月に展示場での同居を開始したところ、じゃれあったり2頭ならんで休んでいたり、行動の幅が広がりました」とのことです。オオカミの社会性の高さが伺えます。来園者からは「女帝の風格がある」と言われることもあるようで、第一回ファミパ総選挙では見事二位となつたそうです。



飼育研究レポート

エゾシカを学ぶ・楽しむ
～「エゾシカまるごとシリーズ」を開催しました～

エゾシカを飼育して看板設置や日々のガイドをしているのですが、北海道の身近な動物でありながら、その魅力や現状をまだ伝え切れていないなあともどかしさを感じていました。そこで、昨年からはじめたのがこのエゾシカを楽しみながら学ぶイベントです。

今年度は、初級コース「エゾシカまるごと体験」と発展コース「エゾシカまるごと発見」の2つを開催し、段階的に学んでもらえるように工夫しました。

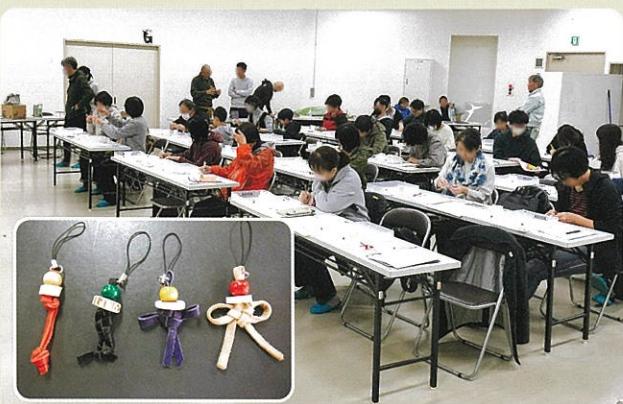
初級コースではエゾシカの基礎知識の講座と園内ガイドの後、エゾシカ肉のしゃぶしゃぶやソーセージの試食を行いました。小さいお子さんから大人の方まで参加があり、和気あいあいと楽しい雰囲気で進み、アンケートからも楽しんでいただけた様子が伺えました。



エゾシカの森でのガイド

上級コースでは、まず参加者を限定して、初級コースを受けた方やそれ以上の知識や経験がある方のみに絞りました。そして、上川・旭川の地域で活躍されているハンターやジビエ工房の代表者を講師として招き、日々の狩猟や駆除、食肉加工のお話を聞きました。

また、ワークショップではエゾシカの角・革・糞を使ってストラップを作ったほか、実際に狩猟で使われる罠(わな)をさわって仕組みを聞くなどの体験も行いました。



エゾシカの基本を学ぶ



ソーセージを焼き、しゃぶしゃぶを提供

ワークショップの様子とストラップ

エゾシカは本当に面白く魅力的な動物ですし、環境保全はもちろん、農林業や経済観光など様々な分野に深く関わり、多くの課題と可能性を抱える北海道の最重要動物といえるでしょう。だからエゾシカについて知るだけで、いろいろな世界が見えてくるのです。

ぜひ、旭山動物園と一緒に学んでみませんか？

(エゾシカ・教育活動担当：上江昌弘)

動物資料展示館をリニューアル！

冬期開園から、動物資料展示館の1階がリニューアルをしましたので、紹介していきます。

まず、動物資料展示館ってどのような施設かみなさん知っていますか？過去に旭山動物園で飼育されていた動物たちの剥製や骨格標本が数多く展示されている施設となります。

今年の2月に登録博物館になった旭山動物園ですが、しっかりとこの施設の機能も充実させていくということで、剥製部分のリニューアルを行ったということになります。

リニューアルした場所は、施設入ってすぐの場所になります。以前は、ゴリラの大きな剥製や骨格標本があり、さらに施設が少し暗いことから中々中に入ることができないという苦情(！？)もありつつ、その隣にはゾウの頭の骨が展示されていた場所です。

夏にこの施設を訪れた方は、北海道の動物の剥製が転がっている状態で準備中となっていたのを見た方もいらっしゃると思います。この転がっていた剥製は、21世紀の森にあった森林学習展示館で展示されていた剥製で、この施設が閉じられるということで、剥製を譲り受けた形になります。

旭山動物園には所蔵されていない動物もたくさんあり、それらを用いて北海道の冬をイメージして剥製の展示にとりかかりました。

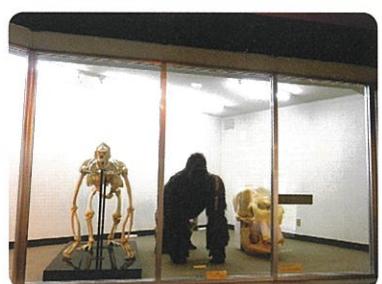


今まで旭山動物園に所蔵されていなかった剥製

- エゾシカ(オス・メス)
- エゾユキウサギ(冬毛)
- キタキツネ など



少し前の様子



リニューアル後

北海道の冬を
イメージした展示
になりました！



大分変わったのがわかりますでしょうか？革新的な変化を遂げたと勝手に思っております。雰囲気も冬を見事に表現できた！とは言い切れませんが、イメージに近づいた感じにはなったかなと思います。

展示を考えている間はとても楽しく、剥製の角度やどこに配置するか、来園者側からだとどのように見えるかなど色々こだわりながら作ってみました。

そんな気合いを入れてリニューアルした動物資料展示館にぜひ足を運んでいただきたいと思います！

主なできごと

- 9月21日 ノスリ2羽 猛禽類医学研究所より来園
10月1日 アオダイショウ2頭繁殖
ニホンカナヘビ2頭繁殖
10月4日 オオハクチョウ2羽、コハクチョウ1羽
仙台市八木山動物園より来園
10月8日 クマタカ死亡(脳出血疑い)
10月13日・14日 旭山スイーZOOフェア2024
10月22日 オオコノハズク 今年繁殖個体成長不良により死亡
10月27日 エゾシカまるごと発見(発展コース)
11月3日 夏期開園終了 わくわくゲーム大会開催
11月7日 ライオン「フウ(風)」
シロテテナガザル「歌多」
シマフクロウ1羽 鈴鹿市動物園へ移動
シマフクロウ1羽 鈴鹿市動物園より来園



ライオン「フウ(風)」



シロテテナガザル「歌多」

- 11月10日 花王国際こども環境絵画
コンテスト受賞作品展 ~12月29日まで
11月11日 冬期開園スタート



◀あったかトーク



クリスマスツリーを飾る会▶

- 11月12日 旭川市内で鳥インフルエンザ発生。ダチョウ、ニワトリ、アヒル展示中止
ホッキョクグマ「ピリカ」出産準備のため展示中止
11月16日 アムールヒョウの仔、骨折
11月17日 ブラッサゲノン「モモ」出産
11月19日 エゾモモンガ死亡(老衰)
11月24日 旭山動物園くらぶ主催「あったかトーク」開催
11月27日 ニホンザル死亡(心不全)
12月1日 クリスマスツリーを飾る会開催

編集後記

夏期開園もいつも通りあつという間に過ぎていきました。5月に生まれ大家族になったエゾタヌキの子どもたちもすっかり大きくなり、どれが親だかわからないほどの成長、また7月に生まれたエゾモモンガたちもすでに独り立ちしています。子どもの成長は早いものですね。そして11月、鳥インフルエンザの発生です。3年前と同じケースでしたが前回の対策で使用した道具なども保

管してあったのと作業手順の記憶が残っていたので対応はスムーズに行われました。「今年の雪はいつかねえ…」なんて言ってたら12月初旬、一気に銀世界になりました。「このまま根雪か?ペンギンの散歩はいつからやれる?あの動物は生まれるのかな?」などなど楽しみがいっぱいの冬期開園が始まりました。みなさん、暖かい格好でぜひ遊びに来てください。
(中田)

最新情報は
ここでチェック!!



公式HP



Facebook



X
(旧Twitter)



Instagram



モユク・カムイ No.123 令和7年1月2日

- 発行所／旭川市旭山動物園
〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
●発行人／田村 哲也
●表紙絵／原田 佳
●編集／中田 真一・中村 亮平・佐賀 真一・大西 敏文・鈴木 達也
原田 佳・上江 昌弘
●印刷／株須田製版：〒063-8603 札幌市西区二十四軒2条6丁目1-8 ☎011-621-1000



FSC
www.fsc.org

ミックス

紙 | 責任ある森林

管理を支えています

FSC® C179035

飼育動物数

令和6年11月末現在

- 哺乳類 40種・311点
●鳥類 47種・275点
●は虫類 9種・ 27点
●両生類 9種・ 27点
●合計 105種・640点